WAFCA×WAP-TIES

7年間の成果

WAFCA
WHEELCHAIRS & FRIENDSHIP CENTER OF ASIA

和歌山大学から、国際協力を。
wakayama ASEAN project

WAP-TIES とは？

WAP（和歌山 ASEAN Project）とは、2013 年に和歌山大学で設立された国際協力学生団体である。「世界に 1 つでも多くの笑顔を作ること」を活動理念に、国内外において様々な活動を行っている。海外では、タイとインドネシアで教育支援活動を行っている。国内では、チャリティーフットサル大会の開催による資金調達・広報活動や、国際協力活動を行う他団体との交流を行っている。

WAP 内に組織される TIES（Transit to Inclusive Education and Society）は、「障害の有無に関わらず、子ども達に社会参画の機会をもっと持ってもらえるような教育環境の実現に貢献すること」を活動理念に、タイの障がい児支援活動を行っている。

TIES に所属する学生は、毎年夏休みを利用してタイに渡航し、WAFCAT （アジア車いす交流センタータイランド）の協力を得て、タイの障がい児に車いすを寄贈している。他にも、家庭訪問の同行や、特殊教育センターの子ども達との交流などを行っている。

WAP-TIES と WAFCA が共に活動を始めてから今年で 8 年目を迎える。7 年間の活動を振返り、今後よりよい関係を築き、活動の幅を広げていきたい。

WAP-TIES の主な活動場所

ロッブリー県周辺施設	サラブリー特殊教育センター
	パンヤヌクン知的養護学校
	テープサトリー・ラチャッパット大学

WAP-TIES の主な活動内容

車いす贈呈

特殊教育センターに通う障がいのある子どもに車いすを寄贈する活動。
日本で開催したチャリティーフットサル大会で集めた選手の参加費を車いすの資金にしている。

家庭訪問

TIES が過去に車いすを贈った家庭を訪問し、障がいのある子どもとその家族に、車いすをもらってからの変化などの話を伺う活動。

交流企画

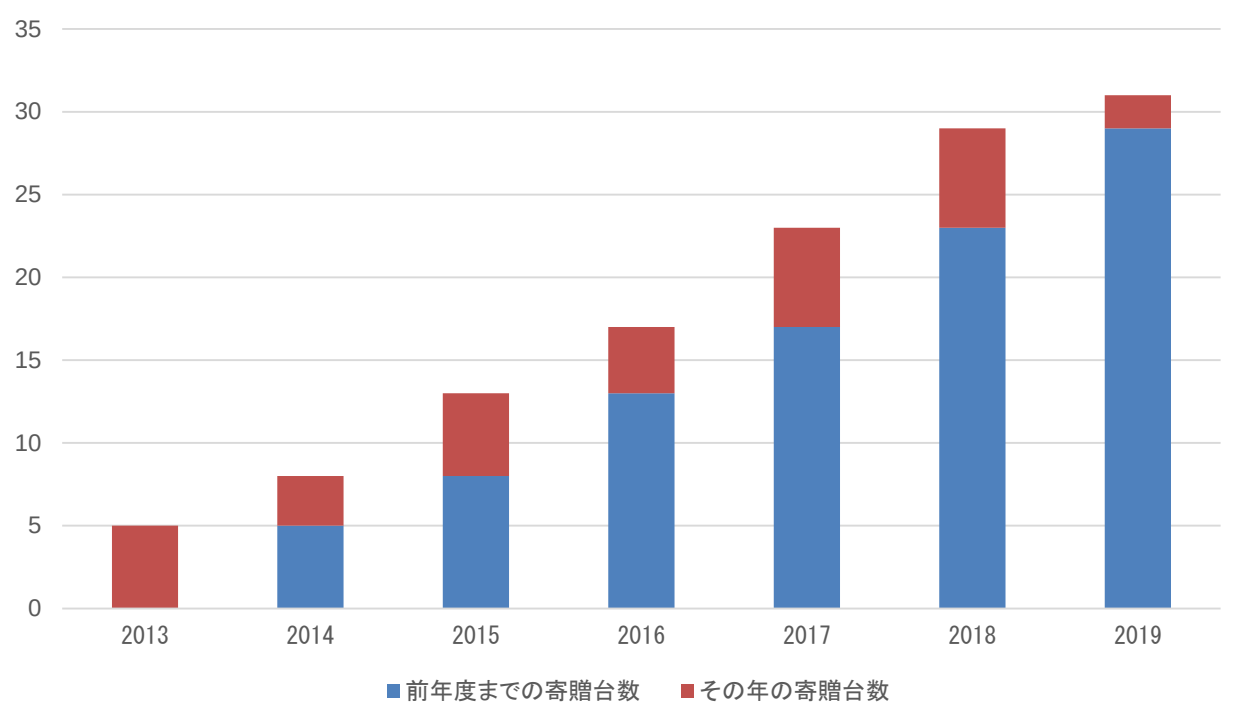
特殊教育センター、パンヤヌクン知的養護学校の子どもたちに交流を通して、学びの場を提供する活動。

文化交流

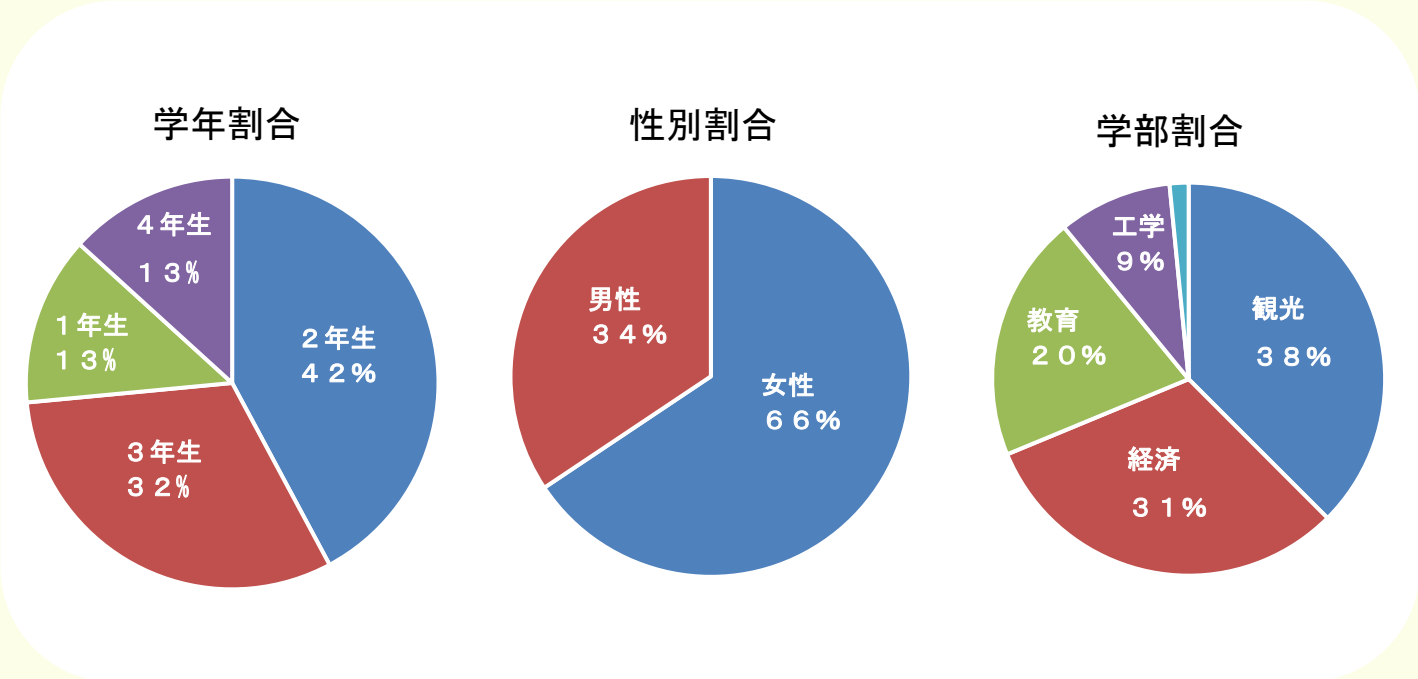
タイへの渡航中、日本語通訳を行ってくれる、ラチャパット大学日本語学科の学生達とお互いの文化を体験する活動。

累計実績

■車いす寄贈台数　３１台



■渡航学生人数　６４名



TIES 渡航の経験と進路について　アンケート調査

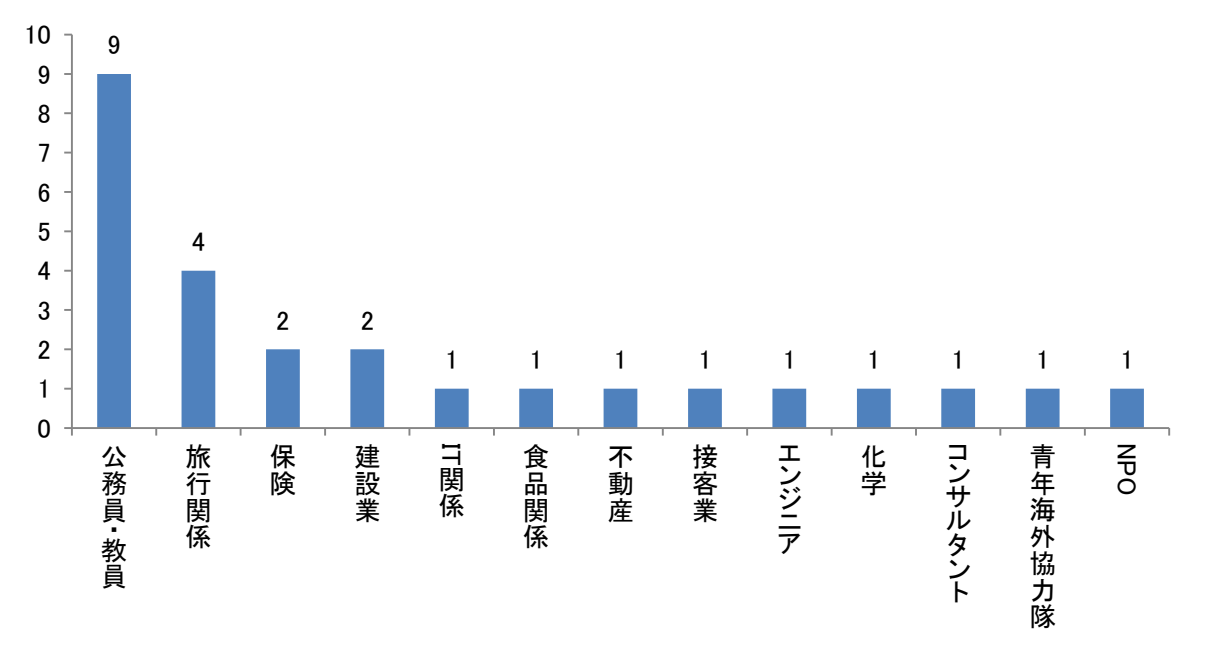
対象　TIES 渡航者のうちすでに卒業し働いている者　49 名（うち回答者 28 名）57%

方法　Google フォームでのアンケート調査

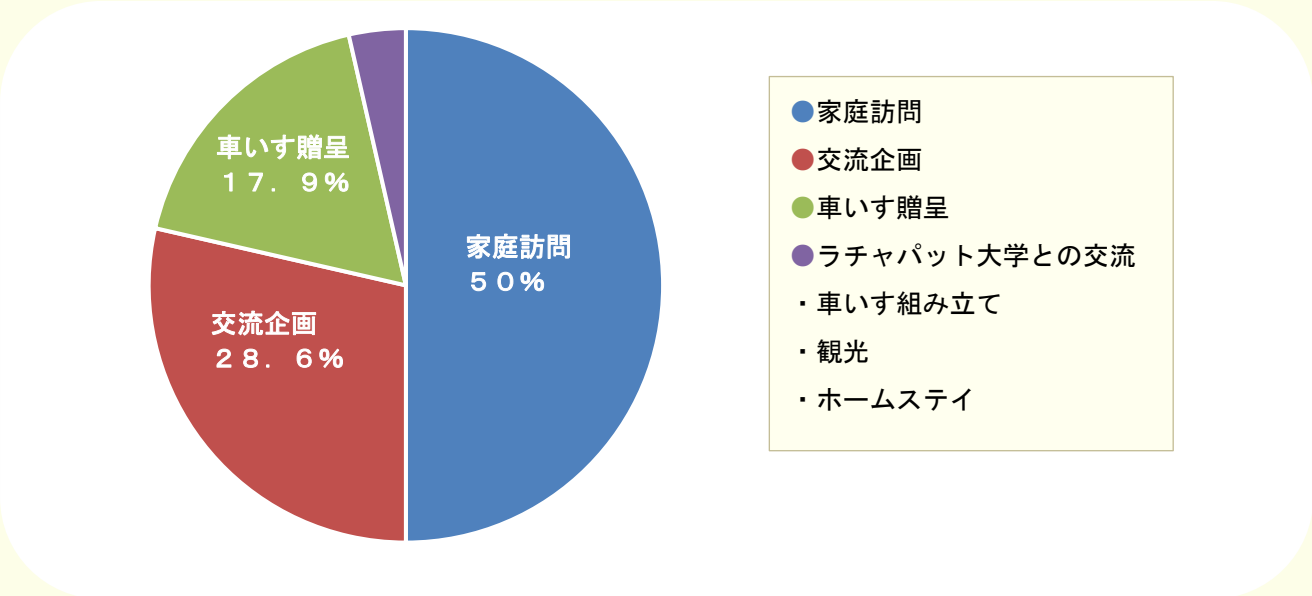
内容　歴代の WAP－TIES メンバーが、タイでの経験をどのようにその後の人生に活かしているのか。

結果

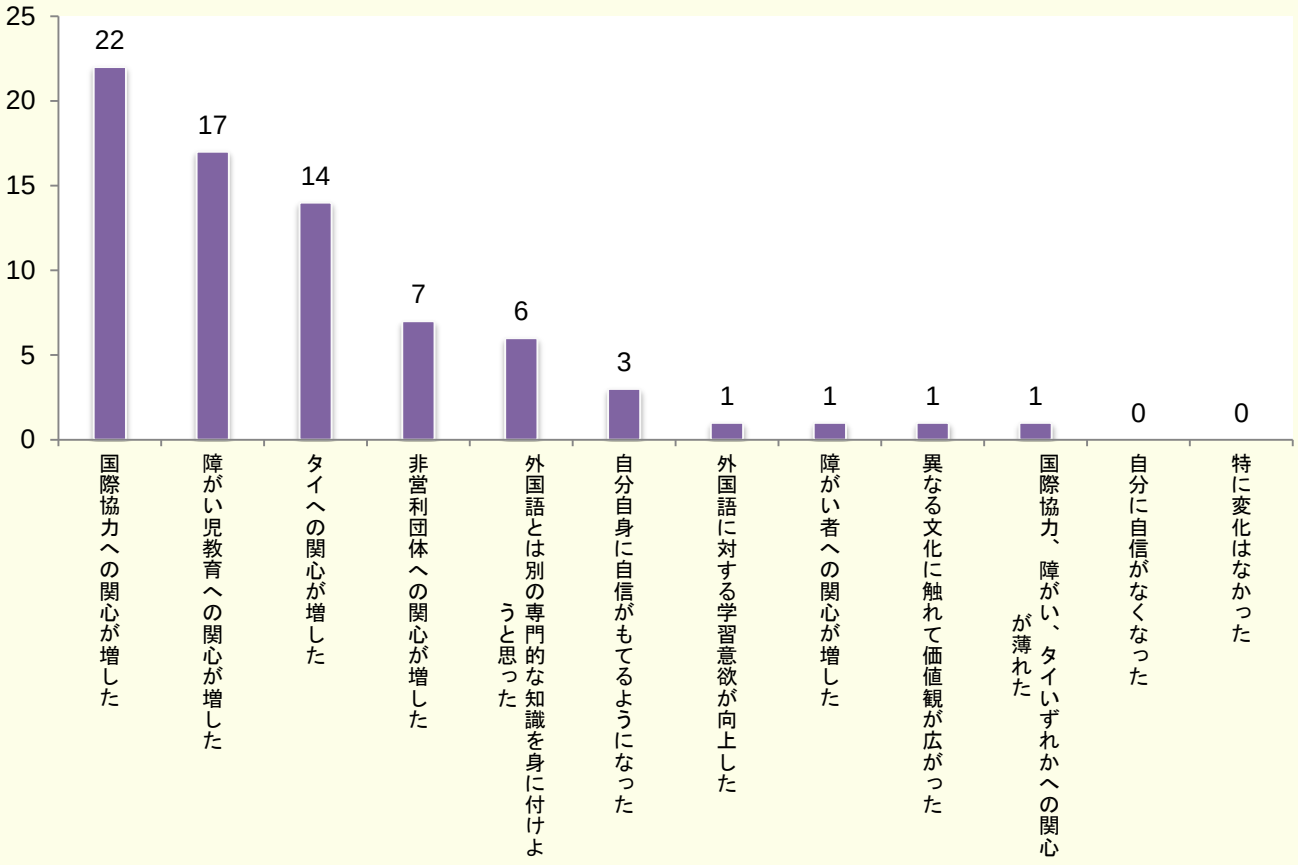
職種



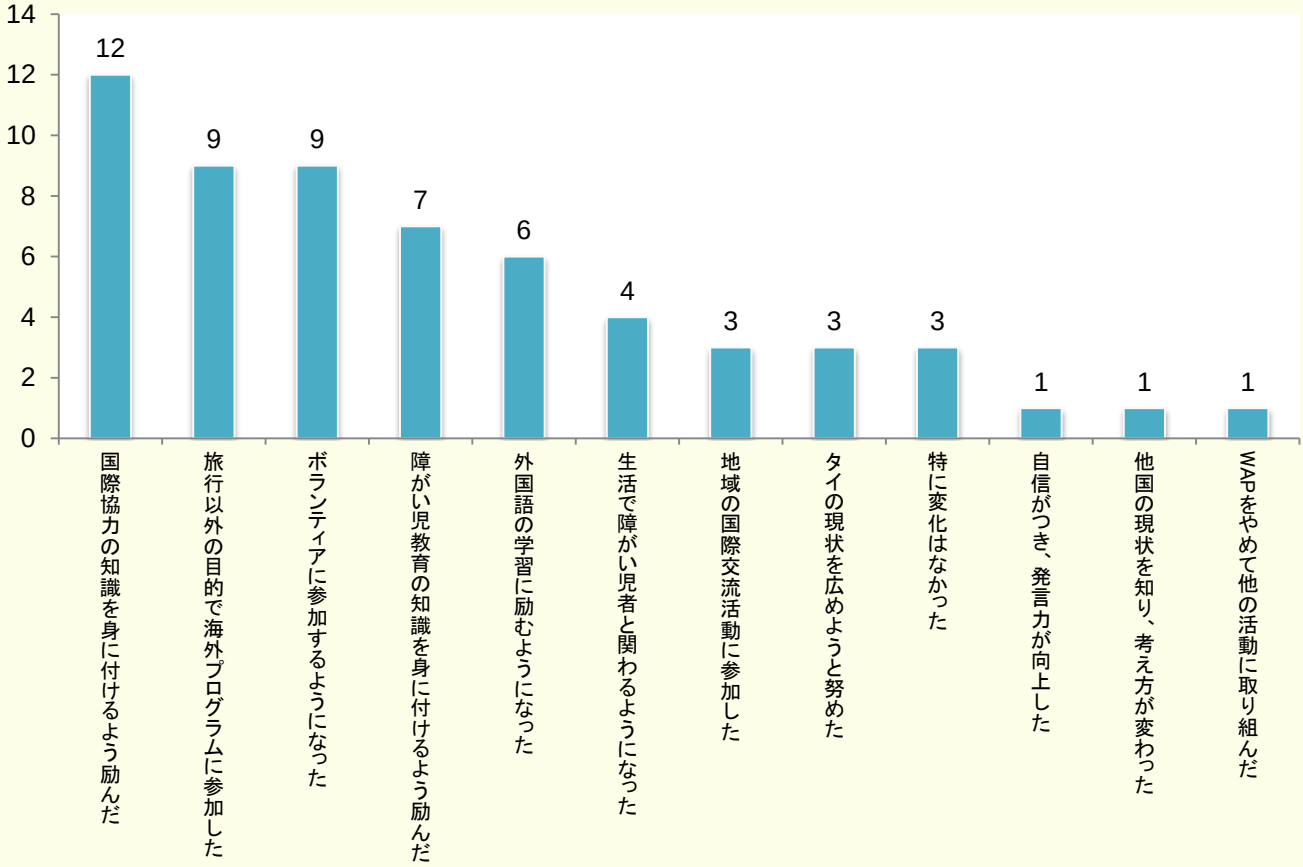
TIES 渡航で最も思い出に残っている活動



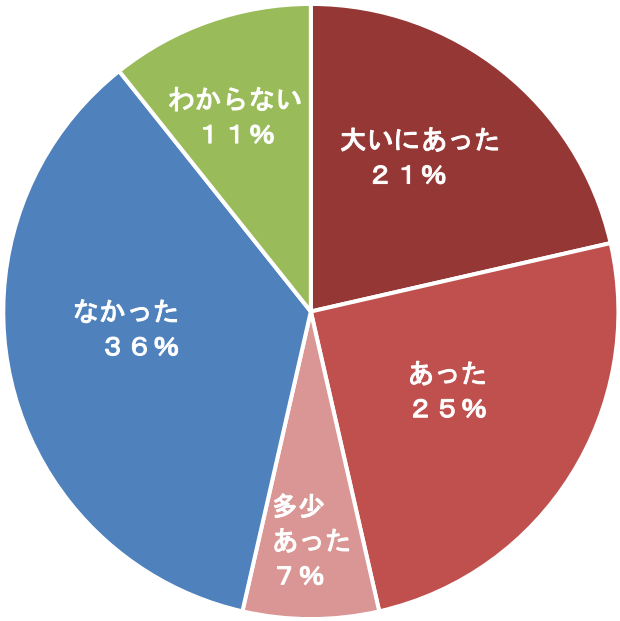
タイから帰国後、どのような意識変化があったか



タイから帰国後どのような行動変化があったか



TIES プログラムの経験が職業選択に影響があったか



あったと答えた人	５３％
なっかたと答えた人	３６％
わからないと答えた人	１１％

どの仕事を選ぶにしても学生時代の経験はとても重要で、その中で国際協力や特別支援教育をできたことは、職業選択や目標設定などで選択肢が増え、人生の中の大きな指標となりました。

24歳　青年海外協力隊

家庭訪問や交流企画などで会う子どもたちの変化が見られた時に、国は違えども、障がい児教育に携わっていきたいと感じました。

24歳　特別支援学校教員

現地で車いすを自分達の手で組み立てて、寄贈しました。それを受け取った時の子どもの笑顔がとても印象的でした。その経験から東南アジアでものづくりをしたいという思いが芽生えたので、東南アジアに事業所がある会社を選びました。

25歳　建設業

施設訪問や家庭訪問を通して現地のニーズを知ることができたため、その解決に携われるような仕事をしたいと思い、メーカーを就職先に選びました。

25 歳　メーカー会社員

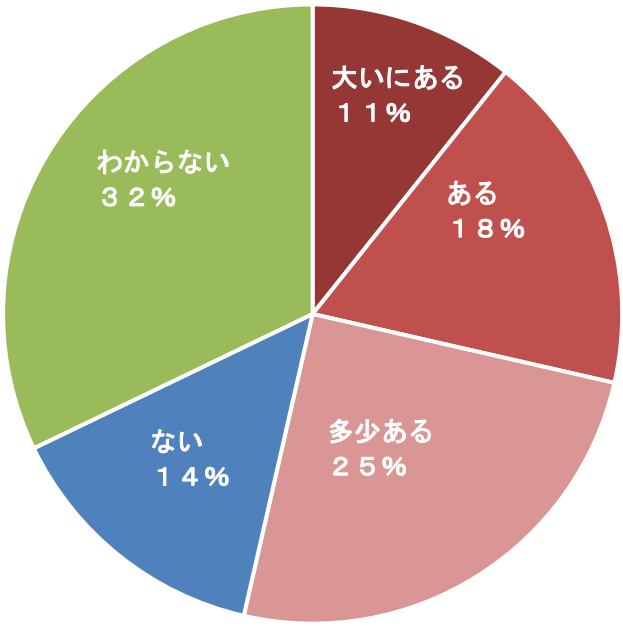
草の根レベルで国際協力に携わることを長期的な将来のキャリアの1つにしたいと思うようになりました。またタイの大学生との交流も将来グローバルな環境で仕事をしたいと思わせてくれた経験でした。

コンサルタント会社員

国際ボランティアをすることによって、人の生活や人生を支えるような仕事に就きたいと思うようになって、それを軸に就職活動を行いました、

24歳　保険会社員

TIES の経験が仕事で役立っていることはあるか



あると答えた人	５４％
ないと答えた人	１４％
わからないと答えた人	３２％

子どもたちに外国のことを伝えることができます。また、障がい者についての学習の場面でも、具体的にどんな活動、どんな思いで接することができるのかを熱を持って伝えることができます。

26歳　小学校教員

教育に携わる中で、自分の授業における手数が増えたと思います。どうすれば興味を引きつけられるか、動機付けができて、子どもたちが食い入るような眼でこちらをみつめてくれるか。企画を練って実践する中で気づけました。

27歳　高校教員

賃貸マンションを建てるオーナー様に対して、バリアフリーの大切さを伝えることができています。

26歳　不動産会社

家庭訪問の経験からアフターフォローをする必要性を学びました。今の仕事はボランティアとは全く関係のない内容ですが、契約をいただいたお客様へのアフターフォローは自分の中で1番大切にしていることです。

24歳　保険会社員

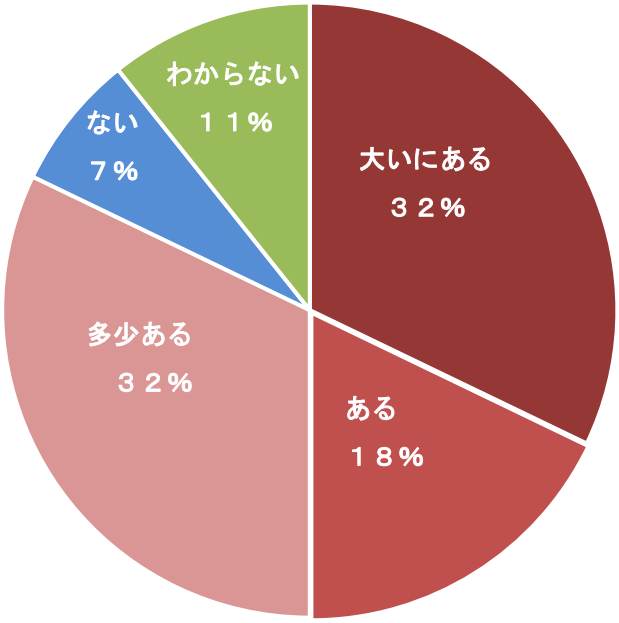
タイでの車いすの製造販売過程を知ることができたため、車いすの大まかな構造や、移動時の支援方法を理解できました。

26歳　公務員

活動を通して多くのタイの方と関わったので、仕事においても外国の方と抵抗無くコミュニケーションが取れています。

25歳　メーカー会社

TIES の経験が仕事以外の生活で役に立っていることがあるか



あると答えた人	８２％
ないと答えた人	７％
わからないと答えた人	１１％

家族や友達など周りの方で障がいのある方と接する際に、TIES での自分の経験から、接し方、話し方などを工夫することができています。

23歳 IT 関係

大学時代の海外経験は、他の国の文化や現状を知りたいと思わせてくれ、今現在海外に行くことへの恐怖心はありません。
旅行でも仕事でも、今後の人生で、どんどん世界に出たいと思わせてくれました。

24歳 青年海外協力隊

TIES の活動を通して障がい者と触れ合ったことで、障がい者に対しての偏見がなくなり、理解が深まりました。

26歳 食品関連

会社が主催する、お客様に来てもらうマラソン大会のイベントがあり、スタッフとしては参加が自由だったのですが、率先して参加しました。TIES の活動を通して、積極性やボランティア精神が身についたと思います。

24歳 保険会社員

タイのような、いわゆる途上国に関する先入観を拭い去ってくれたので、途上国で積極的に取り入れられている教育などのニュースを関心をもってみるようになりました。

27歳 高校教員

社会貢献型のクラウドファンディングに参加するようになりました。

26歳 不動産会社

WAP-TIES 卒業生へのインタビュー

辻 立貴さん

27 歳　高校英語教員

2013, 2014 年度渡航

Q1.TIES を立ち上げたきっかけを教えてください。

１年生の時、大学でタイに行くプログラムに参加して、タイデンソーの工場見学に行った時に、当時 WAFCAT の事務局長だった熊澤さんに出会いました。そこで、タイの障がい児の現状を聞いて、日本に戻ってからも自分達にできることはなにかを当時のメンバーで話し合いました。その後、WAP を立ち上げた 1 期生の協力を得て TIES が立ち上がりました。

TIESとして初めて渡航に行った時、親御さんの思いのもとでWAFCATがあって、みんなが障がいのある子どもたちを何とかしたいという気持ちをもって活動しているのが分かりました。そこに自分達も加われたというのが嬉しかったです。

Q2. タイ渡航から特に影響を受けたことを教えてください。

TIES 渡航でたくさんのラチャパット大学の学生に出会いました。自分達の活動を言葉でサポートしてくれたのがとても助かったし嬉しかったです。その学生の土台を作る日本語教師とも出会い、素敵な仕事だと感じました。そこから、共通の言葉を育む人になりたいという思いが芽生え、大学院に進んで、日本語教育について学びながら、日本語学校の先生として働いていました。

現在は英語教員をしています。TIES の交流企画にしても、ただ自分達がいいなと思ったことを子どもたちにさせるだけでは意味がなく、企画を通して子ども達が「何ができるようになるか」を考える大切さを学びました。そのことが今、生徒との関わりについて考える中でベースになっています。英語をただ教えるだけでは自己満足になってしまいます。生徒が何を知りたいのか、英語を学んだ先に何があるのかを考えることを大切にしています。

Q3. 現在、国際協力活動に関わっていますか？

今、日本では言葉の面で多様な背景をもつ子どもが増えてきています。言葉で困っている子ども達もたくさんいます。そんな子達を言葉の面から支えていきたいという思いが強くあります。

海外に行くだけが国際協力ではないと思うので、自分の知識や経験が活かせる形を考えて関わっています。

匿名さん

25 歳　メーカー会社員

2015, 2016, 2017 年度渡航

Q1.初めて TIES 渡航に参加した時の感想を教えてください。

僕は大学 1 年生の TIES 渡航で初めてタイに行って、その経験が本当に良かったからその後の大学生生活でもどんどん海外に行きたいと思うようになりました。
当時、WAFCAT の事務局長だった熊澤さんとの出会いもとても刺激になりました。
海外で日本人が働くってこんな感じなんだなってイメージが分かって、影響を受けました。
ラチャパット大学の学生との交流も、タイの色んな文化を教えてくれるものだったので面白かったのを覚えています。

Q2..渡航の経験で印象に残っていることはありますか？

家庭訪問です。タイの生活がリアルに見えて色々考えさせられるものがありました。
高床式の家を訪問した時は特に衝撃的でした。階段だったり、家の周りの道は赤土だったりで、地域によってこんなにインフラが整っていないところがあるんだって知れました。
その家の子どもは重度の脳性麻痺がある女の子で、障害の程度的にも、環境的にも車いすが使えない状況って、**日本ではありえない**なって純粋に思いました。車いすをあげるだけでは解決にならないと分かり、もどかしい気持ちでした。

Q3.現在、国際協力活動に関わっていますか？

ビジネスで海外に関わりたいと思っています。
僕は今メーカーで働いていて、自分が製作に携わった物を使ってもらい、海外の人達の生活を豊かにしたいという思いがあります。
自分の会社の商品がタイにも届いていると思うと嬉しいです！

岡本　美波さん

24 歳　保健会社員

2016 年度渡航

Q1.タイに渡航したきっかけは何ですか？

私は WAP のチャリティーフットサル大会の運営もしていたので、大会で集めた資金を、自分の手で使いたいって思うようになって、タイ渡航に参加しようと思いました。

車イスを自分で作ったり、子どもにあげる時、この車いすは自分達がフットサル大会を 1 から作って、**たくさんの選手から繋がったもの**だと思うと、すごくやりがいを感じました。

フットサル大会に参加する選手から、TIES の活動に賛同してくれる声を聞くのも嬉しかったです。

Q2.渡航の経験で印象に残っていることはありますか？

家庭訪問で、TIES が前年度に車いすを贈った女の子が「車イスのおかげで学校にいけるようになった！」と話してくれたのが嬉しかったです。

でも車いすを使えるのは学校の中だけで、外は道が舗装されていないため車イスを使えない現状も知りました。

まだまだ自分達が考えないといけない問題が山積みにあることを実感して、1 回あげるだけで終わらず、**持続的な支援が大切**だと思いました。

Q3.タイ渡航の帰国後、自分自身に変化がありましたか？

タイに行く前、車イスを渡すことがボランティアだと思っていましたが、帰国後は渡した後のアフターフォローについても考えるようになりました。

その時の考え方は、今の仕事でも大切にしていて、契約もらったお客様へのアフターフォローを何よりも大切にしています。

タイ渡航での経験から得たものが、今の自分の強みになっていると思います。

卒業生からのメッセージ

今もまだ活動が続いてくれていて心から感謝していますし、尊敬します。たくさんの人の力や助けがあってそれでいて学生の何も知らないからなんでもできるところが、とってもよかったなぁってよく思い返しています。最後まで貫くことは簡単なことではありませんが、この経験は必ずどこかで生きてきます。

働き始めたばかりなので具体的に何が仕事に役立っているかは分かりませんが、相手の状況やニーズを考えながら、自分たちのやりたいことを企画として作り上げることは今後必ず役立つと思っています。

自分の目で見て体験することの重要さを感じているので、まずは行ってみてほしいと思います。

重要なことは、TIES の活動がどうように社会へ価値を提供していくのか、を考えて欲しいなと思います。タイの子どもたちだけに目がいきがちですが、自分達の成長や今後どうしていきたいかという意志を各個人が持ち、それをどう体現していくのか、様々な目を持って活動を行っていってくれればと思っています。

支援と一言で言いますが、こちらにも多くの気づきがあり、成長につながると思います。これからも WAFCA との関係が続き、タイの子どもたちと和歌山大学の学生たちが共に学び合えることを祈っています。

町で車椅子を見かける度に TIES の活動を思い出しています。これからも毎年、1 人でも多くの後輩が同じような経験をしてほしいなと思っています。WAFCA の皆さんのおかげで、学生のうちに本当にいい経験ができました。

大学 2 年生の時に参加して、1～10 までイベントやスケジュールを作り上げた経験は今でも私の財産だと思っています。これからも TIES の活動がずっと続いて欲しいという気持ちでいっぱいです！

海外渡航が初めてだったり、障がいに関する知識が乏しかったり、渡航前は不安がありましたが、WAFCAT さんのご協力で言語や知識の壁がなくなり、活動に集中できました。活動の中でも私が一番印象に残っているのは、タイウィール工場で働かれている方がしてくださった、普段の生活やタイでの障害者への支援のお話です。現地の声を聞く機会はとても貴重で、有意義な時間でした。これからもよろしくお願いします。

WAFCAT のサポートあっての渡航活動だったと思います。スタディーツアーから始まったことで何年も続けられてきた活動なので、その後の人生を大きく左右するものでなくても、少しでも何か影響を受けて生かしていってほしいなと思います。

WAFCA
WHEELCHAIRS & FRIENDSHIP CENTER OF ASIA

調査実施者

恒松 奈於（WAFCA 事務局員）

経歴

2016 年に和歌山大学教育学部入学、WAP-TIES に所属。
2017,2018,2019 年度の TIES 渡航に参加。
2018 年度の TIES 班長を務める。
2020 年 4 月に WAFCA に入社。

調査協力者・アドバイザー

藤山 一郎先生
（和歌山大学教員/WAP 顧問）